

## 1 喜多方高校と喜多方東高校の統合に関する意見等

- これまでの要望で、スポーツのコースを設けてもらいたいと言ってきたが、選択科目となってしまったことは残念である。
- 中高一貫教育について、今後も導入に向けて進めていく考えである。引き続き、県へ要望してほしい。
- 喜多方市内の子どもたちの多くが市外の高校へ進学している現状は、市内の高校に対する市民の考えの表れであると感じる。
- 統合高校では、難関大学への進学など結果を出せるよう、そのためには結果を出せる教員の配置を望む。
- 両校が創立以来築き上げてきた伝統を統合後も受け継いでもらいたい。伝統の継承は大切なことである。
- 単位制導入については、他県でも実績を挙げている高校があるので、視察などできれば参考になると思う。
- 世の中が変わっていく中で、高校は簡単には変わることができない。この統合を機会に、より良い学校、未来に対応できる学校となるよう、お互いに知恵を出し合い、前例なども研究しながら進めていければよいと思う。

## 2 耶麻農業高校校と会津農林高校の統合に関する意見等

- 少子化の現状を考えると、統合は仕方がないものと考えるところもある。
- 統合するにあたって、県教委では通学に対する不安への対応も考えられているようなので、良い方向に進んできていると感じている。
- 統合校における新たな学科は、3学科の取組みを連携しながら活かしていくこととなるので、学科的には良いものになっていくと感じ少し安心した。
- 子どものことを考えると、良い学校になると思う一方で、寂しくなるところもある。

- 校舎の利活用と、駅前や市役所に花植えをやっていたことが継続できるよう県へ要望したい。
- 山都町に生徒が通う状況が無くなると、町内の活気が無くなり寂しくなると思う。また、校舎がどうなるのか気になる。
- 統合ありきの意見もあるが、中学校長からは、耶麻農業高校は様々な生徒の受け皿となっているので、安心して生徒を送り出すことができるとの意見もある。
- 県の懇談会では、皆さんからの意見等は聞いているものとして、計画がどんどん進められている。
- 耶麻農業高校は、蕎麦をはじめ「花でもてなす喜多方」など、地域との繋がりが非常に強い高校である。また、学習面以外で人間形成といった点でも素晴らしい教育をしている特色ある学校であることを再認識してもらいたい。
- 少子化の状況等を踏まえると統合は仕方がないものと考えた時期もあったが、少人数であっても耶麻農業高校には良さがある。県教委にはその点についても伝えていきたい。
- 小規模校ならではの良さがあると思う。生徒数などの一律の基準で考えることは改めてもらいたい。
- 山都町にとって地域に根差した高校が無くなってしまうことは大変な問題であるが、市全体としても大きな損失となると感じている。
- 耶麻農業高校が本当に無くなってしまってもよいのかと思う。子どもたちの立場に立って考えているのか。良い学校とするために県でもいろいろと考えていると思うが、選ぶ高校を益々少なくするとはか思えない。
- 耶麻農業高校には、人間形成の場としての実績がある。課題を抱える子どもが、農業や自然、地域の人と触れ合うことで、3年間の中できちんと人間形成が成され、社会に出て行っている状況がある。
- ライフコーディネーター科が無くなることは反対である。介護の現場では介護をする人材が少ない状況である。この状況で廃止することは考えられない。仮に、統合して会津坂下町に行ったとしても、会津坂下町にも多くの介護施設がある。高校で学べる場をなくしてしまうことはどうなのかと思う。

- 介護人材の育成にあたっては、地域の施設や社会福祉協議会の方々の支援をいただきながら人材を育ててきた。
- ライフコーディネーター科は現状として良いものだが、介護の資格取得には、ある程度の学力と一定期間で学ぶことが必要となる。それを満たすことができる生徒が少なくなっている状況である。
- 蕎麦打ちについては、優れた人材が現在はいるものの、後継者不足となっている。子どもたちの打つ蕎麦はおいしいので統合後も活動を存続してもらいたい、実際には蕎麦打ちをする生徒が少なくなっている現状である。
- 耶麻農業高校には、ボートや飯豊山などを活用した活動も考えられる。